



チャレンジ！一歩前へ

郡山市立橋小学校
学校だより No.40
令和6年12月9日
文責：校長 酒井 健

【校長のひとりごと】

学校で子どもたちの様子、表情を見ていて、「あれ？ どうしたんだろう」「元気ないな」と思うことがありました。子どもは、それぞれ様々な思いや願い、時には悩みをもって生活しています。口には出せないストレスを抱えていることもあります。最近、そんな子どもたちの姿を何度か見かけたので、この内容を載せてみました。進学のこと・友達関係のこと・学習のことまた、習い事のこと・・・原因・要因は実に様々です。

昨年の学校だより〔令和5年度 No.13〕、そして今年度の学校だより〔令和6年度 No.16〕で2度、掲載したのですが、あえて、今一度、皆さんと一緒に考えていきたいと思い、再度掲載してみました。



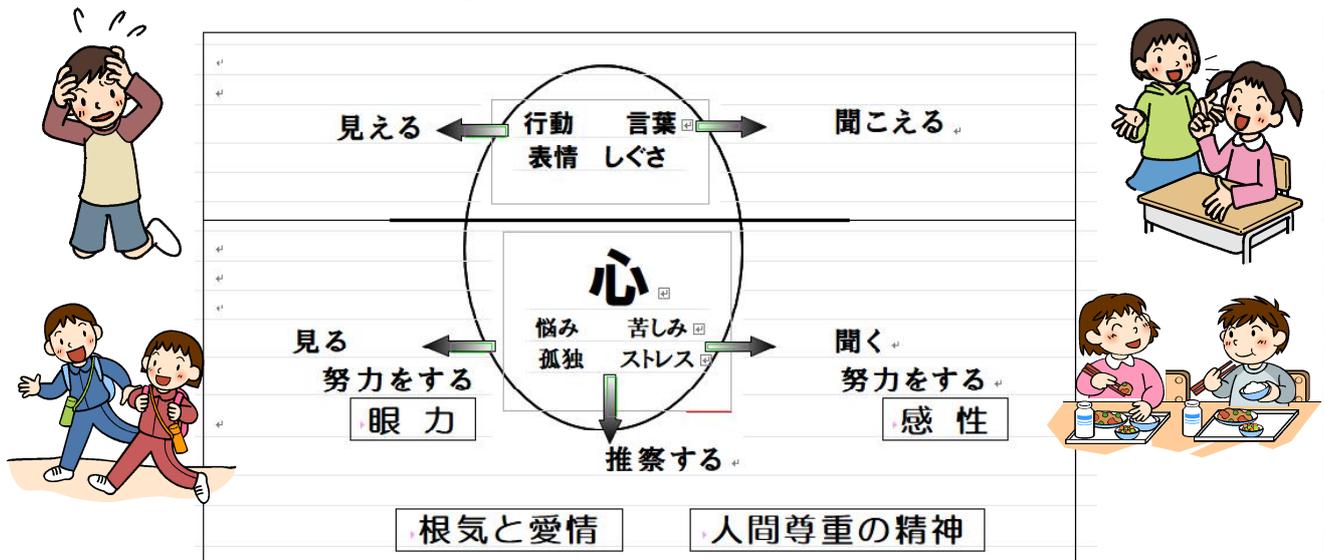
「子どもの本音が見える大人」になりたいものです。

ご家庭においても、お子様をご指導すること・・・ありますよね。

私も息子を叱る、または怒ることがありました。手をあげたことは・・・どうだったかな？それは、きっとなかったと記憶しています。だいたい、叱る時は、目に見える、耳で聞こえることに対して叱っていました。でも、今、考えると、それはどうだったのだろうと感じます。

下の図のように、目で見える、耳で聞こえるのは、「行動、言葉、表情、しぐさ」等です。でも、それらの下に、目では見えない、耳では聞こえない「悩み、苦しみ、孤独、ストレス」・・・つまり「心」が動いています。その「心」の部分が要因となって、行動や言葉などに表れていることが多くあります。

私たち大人は、この、子どもたちの「心」を感じ取りたいものです。子どもたちの「心」を見る努力、聞く努力が必要です。子どもの心の声にそっと耳を傾ける・・・子どもの心の叫びを感じ取る・・・「心に寄り添う」・・・そこが大きなポイントなんだなと思っています。



保護者の皆様も、私たち教職員も、子どもたちの心に寄り添って、子どもたちの心を見る眼力と、心の叫び・SOSを聞く感性を大切にしていきたいものです。

それには、「根気と愛情」「人間尊重の精神」が不可欠なのかな。子どもたちの心をそっとのぞいてみましょう。そして、子どもたちの心に「響く言葉」「届く言葉」をかけていきましょう。子どもたちが心穏やかに、安心して、笑顔で生活することができるようになってほしい・・・、そう願っています。2024年もカウントダウン、一日一日を大切にお過ごしください。